さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

わがまちの遺産 レガシー

昇仙峡を調査 地質学者・石原初太郎

景勝地開発、保全の礎築く

大下条村（現甲斐市大下条）出身の地質学者石原初太郎（1870～1931年）は、県の嘱託で富士山や昇仙峡などの地質と動植物を調査し、景勝地開発の礎を築いた。作家太宰治の妻津島美知子の父でもある。

敷島町誌によると、石原は山梨大の前身である「徽典館」に入学後、第一高等学校、東京帝大理科大学地質学科に進学し、理学士となった。卒業後は東京鉱山監督署や鉱山局などに勤め、教育界では山口県立豊浦中（現県立豊浦高）などの校長を歴任した。

1921年に帰郷し、地質学の見識を見込んだ山梨県の求めに応じて県内の地質調査に着手した。富士山周辺の溶岩樹型や洞穴などをまとめた調査結果は、県が25年に「富士山の自然界」として発表。石原は巻頭で「開発とともに自然界の保存を策するは文明国一般の通観」と述べ、環境保全の重要性について触れている。

石原初太郎が調査した名勝・御嶽昇仙峡

県による景勝開発のため昇仙峡の研究にも尽力した。「郷土史に輝く人々」（青少年のための山梨県民会議刊）によると、昇仙峡の価値を周知し観光による破壊を防ごうと、地質だけでなく、動植物、歴史、文学なども調査。30年に「甲斐の名勝・御嶽昇仙峡と其奥」を発表した。

娘の美知子は39年に太宰と結婚。太宰と美知子の次女である作家津島佑子は著書「火の山－山猿記」で、石原家の人たちをモデルに富士山が見える盆地に暮らす一族を描いていて、初太郎をモデルとする人物も登場する。

甲斐市中下条の敷島書房店主で山梨郷土研究会会員の一條宣好さん(51)は「著書や佑子さんの小説からも、初太郎が知識人で謙虚な人柄だったことがうかがえる」と話す。石原が故郷に残した功績と面影は今に息づいている。〈木場菜摘〉

（2024 年 2 月 16 日付 山梨日日新聞 18 面）

問1 地質学者の石原初太郎は、なにを調査し、なにを築いた人物ですか。

・調　査 ：

・築いた ：

問2 1925 年と 1930年に発表した著作物を答えてください。

・1925 年 ：　　・1930年 ：

問3 山梨郷土研究会の一條さんは、石原初太郎をどのような人だったと話していますか。

問4 石原初太郎と作家太宰治は、どのような間柄ですか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.